

## 第6回黒沢川流域協議会議事要旨

日時：平成16年6月1日（火） 19:00～21:00

場所：長野県南安曇庁舎 講堂

### 議事内容

黒沢川に関する治水対策の基本方針について

### 決定事項

調整池計画に関する測量・調査の実施について承認を得た。

### 出された意見、質疑等

調整池計画について

Q：調整池計画は地権者の同意を得ているのか。

A：影響範囲の地権者に対し説明会を実施し、欠席者へも個々に説明を行い、今後の測量・調査等のスケジュールについて同意を得ている。

Q：第一調整池から第二調整池への導水路の断面形状は？

A：概略で幅3m高さ1～2mのものを想定している。詳細は測量等を行って検討したい。

Q：流木、土砂対策は？

A：調整池容量に堆砂容量は含んでいないので、維持管理のなかで土砂、流木の除去を行っていききたい。

Q：調整池は他の候補地を検討したのか？計画箇所とした理由は？

A：黒沢川最下流から上流部について現地踏査を行い検討した。その中では、赤沢橋下流についても検討したが、調節容量が小さくなり、複数箇所の設置が必要となるため効率が悪くなる。黒沢川の下流部については、護岸が築堤構造であることや勾配も1/30程度あることから放流施設などが大規模になってしまう。以上のような検討を踏まえ、現計画地が適地であると判断した。

Q：赤沢砂防えん堤の堆砂状況は？

A：現状はほとんど堆砂していないが土石流等でたまる可能性はある。第一調整池は、堆砂敷から外れている。

Q：計画地周辺は地質的に地下へ浸透しやすい地質ではないか？

A：地質調査により明らかにしていきたい。調査の結果により、工費が掛かるが遮水することも必要な場合がある。

Q：下流は容量も小さく複数に及ぶことから非効率であるということだが、あってもよいのではないか。

A：下流へ計画した場合、調整分を考慮して改修している砂防事業、改修済み区間で河積が不足し、再改修が必要な箇所が出ることもあり、総合的に判断した。

Q：環境調査についてはどうか。

A：砂防事業で環境調査を実施しており、計画地より下流に希少種を確認している。第二調整池周辺は採石場跡地で何もなく、第一調整池周辺は昔の水田跡地で草が茂っている。川を挟んだ反対側の斜面には蝶の食草などもある。これらに影響のないよう専門家の意見を聞きながら計画を進めていきたい。

Q：カブトムシは害虫なので、保護しないで欲しい。

Q：取水工から放流工までの断面形状がわかる図面などあれば地形的な合理性がわかると思う。

A：今回は地形図上で検討した概略的なものであるため、今後の実施設計等で検討したい。

Q：赤沢砂防えん堤上流は景観もよく、昔の里山の風景を残しているところ。当面第二調整池をつくり、様子を見ることはできないか。

A：第一調整池を作らず第二調整池だけでは全体の治水安全度を考えるうえで厳しい。できるだけ第二調整池を大きくし、第一調整地の規模を小さくする方向で検討したい。

Q：堤体幅を小さくすることで、容量を大きくし調整池を一つにすることは出来ないのか。

A：堤体は基本的には土盛り構造で考えており、基準からいくと原則としてはこのような形状になる。また、流入した土砂、流木の除去など維持管理を考えると、小さな規模の調整池を上流におくことが望ましいと考えている。

Q：流入しない通常時の有効利用についても検討して欲しい。

Q：利用者の安全面の対策を検討して欲しい。

A：通常時に何らかの施設として利用することになれば検討する。

その他

Q：赤沢橋の両側は勾配がきつくカーブもあり、事故も起きていることから調整池と併せて改修すべきでは？

A：今後実施設計を進めていく中で、考慮できる部分については検討していく。

Q：治水ばかりでなく利水対策についても触れて欲しい。

Q：下流の改修済み区間でも堤体の構造について調査し、弱いところは補修して欲しい。

A：河川パトロール、河川モニターによる巡視など点検を行っており、修繕等必要な箇所があれば、随時行っていきたい。